

## 第5学年4組 道徳指導案

平成17年10月27日5校時  
指導者 新潟市立鳥屋野小学校  
教諭 島津弘次

- 1 主題名 相手の意見や立場を尊重して 2 - (4)  
資料名 「すれちがい」 5年生の道徳 文溪堂  
「韓国からの転校生」 西田智貴  
「掲示板3」 島津弘次  
「イソップのお話」 河野与一編訳 岩波書店

### 2 主題に関わる目標

広い心で自分と異なる人の立場を受け入れようとする気持ちを育てる。...心情  
同じ事象に遭遇しても、人にはそれぞれの感じ方や考え方、行動の仕方に相違があるのだとい  
うことに気付き、それらを認めることができる。...判断  
相手がなぜそうなるのか、相手の立場になって考えようとする。...意欲・態度  
いろいろな場面で、自分と異なる意見や立場を尊重した発言や行動ができる。...習慣・行為

### 3 主題設定の理由

#### (1) 主題について

人によって、ものの見方や感じ方、考え方、それらを根拠とした行動の仕方は様々である。物  
事を判断するときには、先入観や思い込みなどから自分本位になりやすい。しかし、日常生活を円  
満に営んでいくためには、自分本位であってはならない。相手の立場を考え、思いやりの心をも  
って失敗を許したり、わがままを抑えて譲り合うことで、よりよい人間関係を構築することがで  
きるということに気付かせたい。

#### (2) 児童について

##### 道徳における実態

「1 主として自分自身に関すること」や「3 主として自然や崇高なもののかかわりに関  
すること」は、大体満足できるものであると考える。特に、1 - (2)の勇気・努力の項目では、  
短いスパンでの目標設定・自己評価を普段の学校生活の中で繰り返し行うことで、目標を立て、  
実行に努力し、振り返ることなどが定着してきた。例えば、休日明けの家庭でのリズムを引きず  
りがちな日に、「 を実行する。」など達成可能な25分休みまでのめあてを立てる。この目標  
を意識して1・2校時を過ごすことでめあてを達成するようにし、25分休み終了後に自己評価  
と反省をするようにしてきた。このような活動を繰り返し行った結果、小さなものではあるが、  
やり遂げた自信と自己有能感を感じることができている。また、学校生活を離れても実践してい  
る児童もあり、夏休み後の家庭からの連絡で、自分の役割を決めて毎日手伝いをしたことや、計  
画を立て見通しをもちながら学習に取り組んでいたこと等の知らせが寄せられた。

その一方、「2 主として他のかかわりに関すること」や「4 主として集団や社会とのか  
かわりに関すること」等の「関わり合い」は、上述の「自分自身のこと」及び「自然・生命のこ  
と」に比べて、努力の余地があると考えられる。これからの指導で伸びることを期待している内容は、  
4 - (1)役割自覚・責任、4 - (4)勤労・奉仕である。日直や給食当番、委員会活動に進ん  
で取り組むことができる児童もいるが、それらの活動に消極的であったり、やらなければならない  
仕事をたいていすっかり忘れてしまったりする児童も多い。また、ゴミが落ちているときに、その  
ゴミに気付いても気付かぬふりをしてそのまま放置してしまったり、捨てるように指示すると「自  
分が落とした訳ではない。」というような言葉が聞かれたりすることもある。

本主題で扱う2 - (4)謙虚寛容については、次のような姿が見られる。

- ・ 近くの席の人が学習用具を間違えて持ち帰り、翌日事情を説明すると、「気にすることないよ。」と許していた。
- ・ ある場面で、やるべきことがきちんとできていない児童が、別の似たような場面で、他の児童の失敗を大げさに指摘していた。
- ・ トラブルの後、他者からは解決したように見えていたが、当事者の心の中では許すことができず、陰で悪口を言うなど長い間根に持っていた。

これらのことから、「軽い過ちであれば、相手のことを考えて、許すことができる心が育ってきている。しかし、自分に甘く他人に厳しいという弱さに気付かない児童や、独りよがりのかたくなな感情を捨てきれない児童もいる。」ということが言える。

#### 情報活用に関わる実態

児童は、収集した情報を使って新聞等にまとめる際には、引用元を明らかにしなければならないということを知っている。しかし、一人一人がまとめた物を見てみると、それらが明記されていない作品もある。大量の情報を集めて整理しきれなかったり、情報の原典にたどり着けずに、友達からもらったりした場合に多いようである。

また、コンピュータ室の LAN を利用したチャットも経験している。参加者がクラスの児童だけだったため、ハンドルネームを使わずに、自分の名前を明らかにしながら参加した。無責任な発言は見られなかったものの、ネットワーク上で自分が発言したことが、他人にどのように受け取られるかということ意識したり、相手の状況を踏まえながら発言したりするという態度は見られなかった。

デジタルポートフォリオを作っていく上で特に重要なタイピングのスキルは、少しずつ向上しているものの、それほど高い訳ではない。10分間で打てる文字数のクラス平均を調べてみると、6月に実施したときには、112.4文字（最大値 324，最小値 12），9月上旬では、112.8文字（最大値 332，最小値 31）であった。2学期から朝学習の15分間を使ってタイピング練習に取り組んだ結果、1月後の10月には167.8文字（最大値 401，最小値 48）になった。スキルの差が大きくなっており、未熟な児童の底上げが課題である。

家庭における児童の情報機器の活用の現状や意識は次のようになっている。

- ・自分のコンピュータをもっている。... 12%
- ・インターネットをするときのルールが決まっている。... 24%
- ・チャットをしたことがある。... 18%
- ・（学校でやったものも含めて）チャットを楽しんでいる... 50%
- ・チャットが犯罪に結びついた事例があることを知っている。... 79%
- ・掲示板に書き込みをしたことがある。... 3%
- ・携帯電話でメールをしたことがある。... 42%
- ・携帯電話をもっている。... 3%

携帯メールの経験率は40%を超えており、調べた項目の中では、高い部類に入った。端末が普及しており、保護者や兄弟のものではあるが、手軽に手にすることができることからこのような結果になったと思われる。自分の携帯をもっている児童は3%であるが、携帯を欲しいと感じている児童は、90%を超えている。

#### （3）資料について

本主題は、以下に記す3つの資料を使って行う。

「すれちがい」 5年生の道徳 文溪堂

児童の身近で起こりそうな問題であり、登場人物の考えや立場を共感的に受け止めて思考を進めることができる資料である。2つの作文から成り立っており、2人の少女が同じ出来事を自分の立場から書いた物である。えり子とピアノの稽古に行くことを約束したよし子は一方的に時間を決める。苛立つ思いでえり子を待ったが、えり子は来ない。すっぽかされたと思ひこみ、えり子に会っても事情を聞こうともせず無視する。一方えり子は、家の事情でよし子の決めた時間を知ることができず、約束に間に合わなかった。謝っても許そうとしないよし子に対して不快感をもつ。同じような経験をしている児童もいると思われるため、自分と比べながらねらいに迫りたい。

「韓国からの転校生」 西田智貴

西田智貴氏の作成した資料を、児童の実態に合わせて一部変えたものである。韓国から転校してきたキムさんと仲良くなったわたしであるが、ある日の給食をきっかけに気まずい関係になってしまう。膝を立てて茶碗を机においたまま食べるキムさんは、これが韓国では正しい姿勢だと主張する。そればかりか、日本の正座が韓国では行儀の悪い姿勢だと言うのである。わたしは、キムさんに対して、賛成・反対どちらの立場から助言をすればいいのか悩んでしまう。異文化に対する寛容な態度と、日本の文化の中で発展した礼儀に焦点を当てて考えさせることができる資料である。

「掲示板3」 島津弘次

児童の実態と情報教育的側面を考え、「イソップのお話 人間 漁師」（河野与一編訳 岩波書店）に手を加えて資料を作成した。生計を立てるため、石で川の水をかき混ぜながら魚を捕る

漁師と、それによって水が濁ってしまい生活に支障が出ると訴える住民のやりとりである。インターネット上では、日常生活以上に1つの事象に対して、様々な意見が寄せられる。それは、世界中のどこからでも、見たり、読んだり、書き込んだりすることができるからである。そのため、提示する話題や宣伝の仕方によっては、児童が想像するよりもはるかに多くの人の意見を集めることができる。しかし、その意見には、様々なものがあり、必ずしも相手の立場に立ったものばかりではない。また、文字情報が中心のやりとりになるため、ちょっとした言い回しで誤解が生じたり、相手を傷つけたり、逆に不快な思いをさせられたりしてしまう。ネットでのコミュニケーションにも実際の生活と同じようにマナーや謙虚寛容な態度が必要であることに気付かせたい。

#### 4 研究テーマと指導の構想

##### 研究テーマ

一人一人の学びを支えるデジタルポートフォリオの活用

##### (1) デジタルポートフォリオについて

###### デジタルポートフォリオの有効性

道徳教育におけるデジタルポートフォリオは有効であると考え。以下にその理由を示す。

###### 道徳教育におけるポートフォリオ的評価の有効性

文部科学省は、道徳教育推進指導資料「心に響き、共に未来を拓く道徳教育の展開」の中で、道徳教育の評価のポイントを示し、「子供が自らの成長を実感する機会をもてるようにしよう」と述べている。そして、その具体例として「心の軌跡を記すノートやファイルを生かす」ことを挙げ、「子どもの心の成長は、子供自身や教師が書き留めたことを意識的に残していくことで、振り返りもしやすくなる」と述べている。また、「1学期単位や1年単位で振り返ることができる『心のファイル』として、様々な記入した物をファイリングしていく方法もある。」とも述べている。これらは、道徳教育におけるポートフォリオ的評価の有効性を示唆したものである。

###### デジタル化された情報の利点

デジタル化された情報の良さとして、保管場所が不要で、整理が容易であること、校内のどのパソコンからも利用できること、ネットワーク上で相互評価ができることなどが考えられる。昨年度の実践からも、デジタルポートフォリオを用いて学習を振り返ることによって、表現力の向上が見られたという成果が得られている。

以上のような長所を組み合わせ生かし、道徳の時間にデジタルポートフォリオによる評価を用いることにより、児童一人一人が、自分の生き方や考え方を容易に振り返ることができ、道徳的な成長を実感することができると考えられる。

##### デジタルポートフォリオを作成するにあたって

###### 導入

児童は9月に自然教室を経験している。グループごとに協力して活動を行った者も多かったが、意見や立場の食い違いからトラブルとなる者も見られた。これらの経験を想起させ、10月末に行われる「児童集会をよりよいものにするためには、どのような態度を身に付ければよいだろうか」と児童に投げかけ、「異なる意見や立場も大切にする」というところに話の流れを向けたい。このことを全教育活動の中で意識づけるようにし、特に道徳では、デジタルポートフォリオを作成することを伝え、自分の考えの軌跡が分かるようにする。

###### 具体的な方法

本主題においては、ノートやプリントの代わりにPC画面上の掲示板（やテンプレート）に直接自分の意見や感想などの心の動きを打ち込んでいく。これをデジタルポートフォリオとして蓄積し、最終時に、蓄積したものを元に主題に関わる自分の考えの軌跡を振り返る。そして、まとめのポートフォリオを作成する。

###### 指導の構想

本主題は6時間で行う計画である。

1時間目～5時間目までは、スズキ教育ソフトのHYPER CubeねっとJr.(以下Cube)の掲示板機能やVTRを使って、学習の様子を記録・保存する。一人一人のフォルダに学習の軌跡を残すことも大切だが、掲示板に記録しておけばデジタルデータが残るため、後でデータをコピー・ペーストして、個々に整理することは、それほど難しいことではない。児童のコンピュータスキルを考えると、このような形で残しておく方が、効率的に授業を進めることができるであろう。また、役割演技や話し合いの様子をVTRによって記録し、ビデオクリップを作成しておく。全ての児童が演技するところや発言するところを撮ることはできないが、代表的なものだけでも動画として残しておくことで、後で振り返りを行ったときに、文字情報と併せて、自分の心の動きをリアルに思い出すことに役立つのではないかと考える。

6時間目は、今まで記録・保存してきたものをコピー・ペーストして個々の情報に整理し直す。そして、自分の考えの軌跡をたどりながら、「相手の意見や立場を尊重して行動すること」について、今の自分の考えを記述する。これがまとめのポートフォリオとなる。

## (2) ルーブリックについて

本主題に関連する情報活用能力を、永野(聖心女子大)が作成した「情報教育の目標リスト」に照らし合わせて考えると以下ようになる。

### 情報化社会に参画する態度

#### 情報に対する態度

##### LEVEL 3 情報と主体的にかかわろうとする

- ・ m3-010 発信された情報が人に与える影響を理解し、行動する。
- ・ m3-030 他の人の情報を元に、自分の情報を改善できる
- ・ m3-050 社会の常識の中には、自分の考えと違うものがあることに気づく

#### 情報モラル

##### LEVEL 3 情報モラルの大切さを受け止め、主体的に行動できる

- ・ n3-010 ネットワークを利用する場合のルールやマナーを身に付ける。
- ・ n3-020 自分の発信した情報に責任を持つ。
- ・ n3-030 相手の状況を踏まえて、情報を発信する。
- ・ n3-050 人権に配慮して情報発信をすることができる。
- ・ n3-070 情報の中にはモラルに反するものがあることを知り、適切な行動ができる

これらの中でも特に「m3-050 社会の常識の中には、自分の考えと違うものがあることに気づく」および「n3-030 相手の状況を踏まえて、情報を発信する」に重点を置くこととし、情報活用に関わる評価規準を設定する。そして、それに関する判断基準を質と量の2つの面から作成する。

5 情報活用能力に関わる主題の評価規準

評価規準 (児童にとっては、めあて)	判断基準		の数	評価
<p>* ある問題に対しては、様々な理由に支えられた様々な意見があり、それは常に自分の意見と同じとは限らないということに気づく。 ・・・</p> <p>( 「m3-050 社会の常識の中には、自分の考えと違うものがあることに気づく」に関連 )</p>	質に関わる基準	・意見には、自分と同じものや違うものがあることに気づく。	4	5
		・意見を支える理由は様々であることに気づく。	3	4
		・自分と同じ考えが、違う考えよりもいつも多い訳ではないことに気づく。	2	3
		・自分と同じ考えが、違う考えよりもいつも多い訳ではないことに気づく。	1	2
		・自分と違う意見であるからといって、よく考えずに感情的に反対したり、切り捨てたしてはいけないということに気づく。	0	1
	量に関わる基準	・人と接したり、ネットワークを利用する際には、いつも意識している。	4	4
		・だいたい意識できているが、時々自分に都合のいい意見だけを信じてしまう。	3	3
		・意識しているときと、していないときとの割合が半々である。	2	2
・できていないことの方が多く、自分に都合のいい意見だけを信じてしまうことが多い。		1	1	
<p>* 相手の意見や立場をよく考えた上で、相手に不快な思いをもたせることなく、自分の意見や感想を分かりやすく伝えることができる。 ・・・</p> <p>( 「n3-030 相手の状況を踏まえて、情報を発信する」に関連 )</p>	質に関わる基準	・意見を繰り返し読んだり、考えたりしている。	4	5
		・自分の考えの中心になる部分を落とさずに伝えている。	3	4
		・相手が自分の伝えたかったことをよく理解できたと思う。	2	3
		・相手が自分の伝えたかったことをよく理解できたと思う。	1	2
		・自分が同じようにいわれても嫌な感じはしないと思う。	0	1
	量に関わる基準	・人と接したり、ネットワークを利用する際には、いつもしている。	4	4
		・だいたいできているが、時々相手意識が薄れてしまったり、表現が不適切になったりしてしまう。	3	3
		・できているときと、できていないときとの割合が半々である。	2	2
・できていないことの方が多く、相手を傷つけてしまったり、不適切な表現をしてしまったりしていることがある。		1	1	

6 指導と評価の計画 全6時間(本時5/6)

次(時)		ねらい・主な学習活動	情報活用に関わる評価		情報活用に関わる留意事項等
1	1	<p>ねらい...広い心で相手の立場を考え、自分と異なる意見も大切にしようとする態度を養う。</p> <p>資料...すれ違い</p> <p>すれ違った経験を発表する。 資料のあらすじを確認する。 よし子やえり子の行動や心情について考える。 今後どうすればいいかを考え役割演技をする。 「相手の立場に立つ」ということで考えたことを書く。</p>			<p>作成するデジタルポートフォリオ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掲示板に記入したテキスト</li> <li>・ 役割演技の VTR</li> </ul> <p>ループリック実施</p>
	2・3	<p>ねらい...広い心で相手の立場を考え、様々な文化を尊重しようとする態度を養う。</p> <p>資料...韓国からの転校生</p> <p>第2時 資料のあらすじを確認する。 キムさんとわたしの行動や心情について考える。 どちらの立場から意見を述べればいいのか考える。</p> <p>第3時 友達の見解と比較し、話し合う。 再度、どういう立場から意見を述べればいいのか考える。</p>			<p>作成するデジタルポートフォリオ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掲示板に記入したテキスト</li> <li>・ 互いの考えに対する意見交換の VTR</li> </ul> <p>ループリック実施</p>
	4・5 本時	<p>ねらい...顔の見えないネットワーク上のやりとりであっても、相手の立場を考え、自分と異なる意見も大切にしようとする態度を養う。</p> <p>資料...掲示板 3</p> <p>第4時 資料を読み、あらすじを確認する。 漁師と住民の行動や心情について考える。 立場を決めて、掲示板に自分の意見を投稿する。 投稿された意見を自分の考えと比較して整理する。</p> <p>第5時(本時) めあての確認と前時の学習の想起 意見を交流し、自分の考えを広げたり、深めたりする。 交流を参考にしながら最終的な自分の意見を投稿する。 学習を振り返り自己評価する。</p>			<p>作成するデジタルポートフォリオ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掲示板に投稿したテキスト</li> </ul> <p>ループリック実施</p>
2	6	<p>ねらい...1次での学習を振り返り、考えの軌跡をたどることにより、心の成長を実感することができる。</p> <p>資料...1～5時間目までのデジタルポートフォリオ</p> <p>相手の意見や立場を尊重して行動することについて、自分の考えの軌跡をたどる。 相手の意見や立場を尊重して行動することについて、今の自分の考えを記述する。 記入したものを掲示板に掲示して、交流する。 学習の感想を出し合う。</p>			<p>作成するデジタルポートフォリオ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掲示板に記入したものをコピー・ペースとしてテンプレートに転記。</li> <li>・ 教師の用意した1～5時間目までの役割演技等のビデオクリップ</li> </ul> <p>ループリック実施</p>

## 7 本時の学習（本時5 / 6）

### （1）本時のねらい

顔の見えないネットワーク上のやりとりであっても、相手の立場を考え、自分と異なる意見も大切にしようとする態度を養う。

### （2）本時の構想

2時間扱いの2時間目である。ネットワーク上でも必要な寛容・謙虚な態度に気づかせるために、実際にネットワークを利用して学習を進めていく。具体的には、コンピュータ室のLANを利用して仮想インターネットを作り、そこにCubeの電子掲示板を設置する。そこに書き込みを行わせたり、書かれた意見を読ませたりする活動を通して、さまざまな考えに出会わせ、適切に対処させることでねらいに迫っていこうと考えている。世界中から自由にアクセスできるインターネットと違って、閉ざされたネットワークには、有害情報を排除し、安心して疑似体験できる、というメリットがあると考えている。

導入では、2つの活動を行う。1つは「めあての確認」、もう一つは「前時の学習の想起」である。

「めあての確認」は、本主題を通して利用しているめあてカードを読む、という方法で行う。めあては2つあり、1つ目は「情報に対する態度」に関係するもの、2つ目は、「情報モラル」に関係するものである。1つ目のめあてを確認することが、多様な考えを受け入れようとする心構えにつながり、2つ目のめあてを確認することが、感情的ではなく、主張的に自分の考えを伝えようとする心構えにつながると考えている。

「前時の学習の想起」は、教師が資料を範読することと、代表児童に前時で使用したプリントを読ませることにより行う。このプリントの上半分には、自分の考えと比較した友達の意見の相違点が、下半分には、友達の良い意見や不快な意見が記入されている。それらを確認することで、ネットワーク上のモラルの大切さを暗に示唆することができると考えている。さらに、1つの書き込みに対して感じる思いはさまざまであり、ある児童が良いと感じても別な児童は不快だと感じる場合もあるということに気付かせる。プリントの書き込みを1つずつ確認し、快・不快を紹介していくことで、児童の気づきを促していく。児童には、文字情報だけのやりとりの難しさを感じて欲しい。その経験を生かして、チャットや電子掲示板に書き込む際に気をつけるべき事を考え、次の展開の場面で生かして欲しい。

展開では、自分の考えを更に広めたり、深めたりするために、掲示板に「お返事メッセージ」（確認メッセージや反論）を書き込む。児童は、これまでの学習で、電子掲示板を自分のノートやメモ帳代わりに使用したことはあるが、他人の意見に対して更に意見を加えたり、他人の意見に反論したりするという経験はない。しかし、第3時では他人の意見を参考にしながら自分の考えを振り返り、意見の強化や修正を行ってきている。その際に、掲示板に書き込まれた友達の考えが非常に役に立ったということを経験している。発言のように消えてなくなるものでなく、目の前にいつまでも残り、何度も読み返すことができるものである。書き込まれた情報からじっくりと考えたり、筋道立てて反論したり、自分の考えを分かりやすく表現したりしてネットワーク上での意見交換をしてほしい。そして、自分の考えを広げ、深めていってほしい。文書を書くのが苦手で、書き込みが思うように進められない児童には、書き方ヒントカードを配り、短くてもいいので、自分の考えを投稿する機会を必ず持たせるようにする。

交流の後は、その経験を生かしながら、漁師を支持するのか、それとも住民を支持するのか、最終的な自分の立場を明らかにする。これまでの学習で自分の考えがどのように揺れ動いたのか、その軌跡が分かるように支持する理由なども詳しく書かせるようにしたい。ここでも作業を効率よく進めることができない児童が現れることが予想されるが、展開時と同じように書き方ヒントカードによる支援を行いたい。

最後にカードを使って自己評価を行う。めあてに対するチェックポイントのできたところをつけ、の数を数えて評価を出す。また、ネットワーク上での交流を持った本時では、投稿した意見が「相手の立場に立って書かれたものであったかどうか」を振り返る必要もあるため、記述形式で、そのことについても自己評価させる。

### （3）本時の展開...別紙

学習活動	教師の働きかけと児童の反応 【 教師の意図, ( ) 具体的な行為】	指導上の留意点
めあての確認・ 前時の学習の想起  10分	<p><b>心構えを作る</b> t : めあてカードを使って, めあてを確認しましょう。 (めあてを読む) c : めあてを達成するぞ。 c : 今日もこれか。</p> <p><b>学習の想起</b> t : 前回の学習を思い出すためにもう一度資料を読みます。 (範読 物語文のところのみ読む) c : そういえばこんなお話だったな。 c : 自分は漁師を支持だったな。</p> <p><b>学習の想起 モラルの示唆</b> t : 意見を整理したプリントを確認しましょう。 (意図的指名) c : 同じ意見で, 理由も同じ人は...。同じ意見で, 理由が違う人は...。違う意見で, 理由に気づいていた人は...。違う意見で, 理由に気づかなかった人は... c : 良い意見だと思った人は...。理由は...。 不快だと感じた意見は...。理由は, ~だから。</p> <p><b>人によって受け取り方が違うことへの気づき</b> t : Aさんが不快と感じているのは? c : Bさん。 t : Cさんは誰を良いなと思うところに記入しましたか? c : Bさん。 t : 同じ書き込みでも, 受け取る人によって感じ方がぜんぜん違いますね。</p>	<p>【支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意識が薄いと思われる児童には, 必要に応じて再度読ませ, 意識を高める。</li> </ul> <p>【教師の構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゆっくりと分かりやすく読む。</li> </ul> <p>【教師の構え】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同じ意見で理由の違う者, 違う意見で自分の考えつかなかった理由をあげている者の欄が良く書いている者を指名する。</li> </ul>
意見の交流  15分	<p><b>考えを更に広げたり, 深めたりするための意見交流</b> t : 考えの同じ人や違う人にメッセージを投稿しましょう。 c : 自分と同じ立場の人へ ・さんと同じ考えでした。自分の考えの確かさに自信が持てました。 ・さんとは, 意見は同じだけど, 理由が違っておどろきました。 ・考えも理由も同じだけど, あなたの意見はちょっと書き方が悪いと思います。とてもイヤな感じがしました。 c : 自分とは違う立場の人へ ・私はその意見に反対です。理由は...だからです。 ・あなたの意見は, 私と違うけど, とても良いと思いました。特に...については, 私は考えつきませんでした。 ・私は, その考えには反対です。私もそういう点は考えたけど, もっと~~の方が大切だと思いました。</p>	<p>【支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書き方のわからないものには, 書き方ヒントカードを必要に応じて配る。</li> <li>タイピングの遅い者については, 鉛筆での記述とどちらがよいかを選択させ, 後でタイピングさせる。</li> <li>必要に応じて参考にできるように, 前時の全員の投稿をまとめたプリントを配布しておく。</li> </ul>
最終的な意志決定  10分	<p><b>最終的な意志決定と心の動きの軌跡の記録</b> t : 最終的に自分が漁師と住民のどちらを支持するのか決めて, その理由も書き, 掲示板に投稿しましょう。 c : 支持。私はやっぱり を支持します。~さんの意見もいいけれど, やっぱり...は大切だと思うからです。 c : 支持。私は, 最初 支持だったけど, 支持に変えます。理由は, ~さんの意見を読んでなるほどと思ったからです。</p>	<p>【支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書き方のわからないものには, 書き方ヒントカードを必要に応じて配る。</li> <li>タイピングの遅い者については, 鉛筆での記述とどちらがよいかを選択させ, 後でタイプさせる。</li> </ul>
自己評価 10分	<p><b>活動を振り返り評価</b> t : 学習を振り返って自己評価しましょう。 c : 学習カードへ を記入。情報発信を振り返り記述。</p>	